

### ヒューマンガイドテクニックについて③

#### 「ガイド者からの言葉かけの必要性が高い場面」その2

##### (2) 工事中の道

工事現場や、いつもと違う迂回路などがある場合には環境の説明をしながら、ガイドをします。安全な側を説明し、場合によっては歩行者にガイドの位置を交代してもらうようにします。同時に、路面の凹凸の状態や、工事の様子などを説明します。

工事現場は、音・匂い・路面の変化など環境が大きく変動するため、歩行者は定位（自分のいる位置、向き、方角などの理解）を失うこともあり、事故や怪我の原因になります。



##### (3) 交差点の横断

交差点の横断では、信号機の色や、(信号機がない場合は)車が来ていないことを説明し、ガイドをします。

信号のあるなしに関わらず交差点は、事故の危険を伴う場所です。特にハイブリッドカーなどは車音の聞き取りが難しいため、車が来ないと思い込み横断して、事故につながる危険な状況になる場合があります。また、交差点の横断時は伝うものが何もない空間で歩くため、方向を見失い、気付かない間に道路の真ん中にいるなど定位を失う場合があります。

##### (4) 人ごみの中での移動

人ごみの中で、2人分の幅が確保できない場合は、狭いところの通過の方法（歩行者がガイド者の後ろに位置する）でガイドをします。

特に視覚に障害がある人が、立ち止まったり、同じ場所を行ったり来たりして困っている様子ときには、自分のいる位置が分からなくなり困っているときです。必ず声をかけてガイドを申し出てください。



**(5) 上半身をぶつける可能性がある場面**（トラックのサイドミラー、歩道橋の裏側、電柱の支柱、道路にはみ出している生け垣の枝、看板など）

高い位置にある障害物は、白杖での発見が出来ないため、状況を説明し、回避できるようにガイドします。

歩行者の上半身の高さに飛び出している事物は、白杖で発見することが難しく、衝突する危険性があります。顔面への衝突は、大きなケガをする可能性があります。